資料-５５

# 第３章 人口と都市空間　についての専門作業部会での意見

## １ 人口

| | 専門作業部会での意見 | 備考 |
|---|---|---|
| ① | 人口推計が35万人になるのは、地域別の背景があるから成り立つ。それを反映させた推計がいる。 | |
| ② | 今後予想される住宅建設により、どう人口が増加するか書ければよい。 | |
| ③ | 千里ニュータウン地域や山田・千里丘地域など一つ一つの地域で起こることが特殊であり、それが分かるように書かなければならない。緑地が減少することも大きな問題であり、千里ニュータウンの再生で緑地を確保できるのかという問題を含んでいる書き方にならないか。 | |
| ④ | 緑が壊れるマイナス要素に対し、社会資本が今後どのように整備が必要になるのかという要素と別に、開発による新しい住民によって吹田に生まれる新たな活力を活かすために「よりよい住環境や都市機能をこういう方法で整備し、その活力を吹田市に取り込む」姿勢が必要である。 | |
| ⑤ | 人口が落ち込む一方、これから十数年間に新たな新住民が生まれることで、地域社会にインパクトのある動きがあり、同時に都市空間が大きく変わろうとしていることを言わなければならない。 | |
| ⑥ | 住宅の建替が人口増加として見込まれるためには、「福祉施策などが重要になります」など期待に答えつづける努力が必要。そのため、「なお一層の福祉施策や子育て支援の充実が必要です」という書き方になり「多世代の市民の活力をまちづくりに生かし多様なニーズに答えるまちづくりが必要です」ということになる。 | |
| ⑦ | 「交通の利便性」については、吹田市でできることは少ない。むしろ、教育環境や大学などを書く。子育てと高齢者福祉を書くのは姿勢としてよい。 | |

## 2　都市空間　（１）

| | 専門作業部会での意見 | 備考 |
|---|---|---|
| ① | 今後の吹田のまちのイメージとして、都市空間の目標としてイメージをつくることを書き込む。 | |
| ② | 千里ニュータウンによって吹田市は比較的良好な緑が多い住宅環境が確保されていたが、この１０年間に急速に変化している。それを説明すると、ここにニュータウンについて書くことについて全ての市民が納得できると思う。 | （千里ニュータウン地域） |
| ③ | 「とりわけ課題の多い千里ニュータウンは」というイメージに聞こえるが「その課題の解決を日本で先駆けてする」という意味なら理解できる。 | （千里ニュータウン地域） |
| ④ | 「とりわけ」は高齢化に対する問題である。緑の問題は他地域と比べると比較的多く、恵まれている。 | （千里ニュータウン地域） |
| ⑤ | 建築空間を含めた緑化を目指すならもっと強く「緑豊か」を書くべき。「緑豊か」は重要なコンセプトである。 | （千里ニュータウン地域） |

## 2　都市空間　（２）

| | 専門作業部会での意見 | 備考 |
|---|---|---|
| ① | 都市拠点として江坂、ＪＲ吹田駅、阪急吹田駅があり、ここに新しく操車場をいれるかどうかがある。鉄道の利便性の上に立っている吹田の特性に変わりはなく、４都市拠点の特徴の分担を検討する必要がある。また、４拠点に結びつくように地域拠点があり、さらに市民生活の利便性の向上する社会的サービスやレクリエーション機能が付随しているという書き方をする必要がある。 | |
| ② | 拠点の性格として例えば、「新規性の江坂」「健康と安心の吹田操車場跡地」「賑わいのＪＲ吹田」「文化の阪急吹田」など、ある程度総合計画でビジョンを示す必要があり、操車場跡地の問題は、公害を克服してでもここで未来をひらくために必要なのだということを書いておくべきだ。 | |
| ③ | 総合計画で地域の問題として位置づける。操車場跡地は、できるだけ生活環境への影響を小さくすることと、大きな公益が実現されていなければならず、そうでなければ大義名分が通らない。 | （吹田操車場跡地） |
| ④ | 「今議論している吹田操車場跡地については社会動向を見据え、本市と地域の新しい未来をひらく魅力的な『都市拠点』となるように、市民参加の総合的な取組を進めるべきである。」という言い方が良い。江坂と並ぶ都市拠点として決めたので、「商業施設ができるのか、マンションを分譲するのか、こんな事の為に犠牲になるのか」と思われる事もある。「緑の話もある、南北分断の解決もある」等の未来への可能性が開かれるので、「知恵を貸して頂き、マイナス面に対して配慮頂く様に工夫しましょう」という基本的なスタンスは行政にも必要である。 | （吹田操車場跡地） |
| ⑤ | 若い人が始めた小さな事業所、コミュニティビジネスが発生するような、新しく何かが生まれるエネルギーが特徴にある。 | （江坂地域） |
| ⑥ | 江坂の将来の方向性は新規事業が活発な場であることと、文化やにぎわいなどである。特徴を伸ばすためには環境を悪化させる要因は取り除くべきである。 | （江坂地域） |

2 都市空間　（3）

| | 専門作業部会での意見 | 備考 |
|---|---|---|
| ① | エコロジー的な交通の発想が無く、その要素が入っていない事が大きな問題である。「環境に配慮した」と入れてもらいたい。 | |
| ② | 「都市機能軸」より、バスと自転車で動きやすい環境を整備するので良い。 | |
| ③ | 「都市活動の拠点が分散しています。それぞれは大阪全体を代表するような高度な機能を持った活動拠点ですが、しかし、それが分断しているために吹田の力を発揮されていない、市民にも充分享受されていないので、分断されたバラバラの活動の中心拠点を結ぶことで市の活力を高めていく。そして大阪都心部だけでなく、豊中市、箕面市などの衛星都市と結びつくことで更に高度な都市機能を発揮することができる。その活動の連携により福祉・文化・商業を高度に発揮するためにも連携は必要です」とすれば分かりやすい。「連携」によるネットワークが大切で、「軸」は必要ない。 | |

2 都市空間　（4）

| | 専門作業部会での意見 | 備考 |
|---|---|---|
| ① | 自然の共生空間を議論するなら、もっと積極的に埋め込む努力が必要であり、開発対象となる竹林やため池に対してもかなり強い書き方をしなければならない。地区内に緑を確保するとか、「総合的環境に配慮した都市づくりをしていかなければならない」という書き方をしなければならない。 | |
| ② | 歴史的な経緯のあるまちであり、少し前に庄屋宅が公共空間として使われるようになった。昔の屋敷の中に緑があったり、そういうことを盛り込んでもいいと思う。 | |
| ③ | 新しい開発と自然だけでなく、歴史的環境とか文化的環境とかの記述があっても良い。 | |
| ④ | 吹田市がどういう景観を理想にするかの議論がない。「緑豊か」にこだわる必要があり、水辺の環境や古い街並みをきちんと積み重ね、その部分を総合計画にきちんと書かなければいけない。 | |